

Ⅲ. 学校選択制の検証について

1. 学校選択制の検証について

(1) 検証の目的

学校選択制は平成17年度に制度が導入され、導入後は原則として3年毎に制度検証を行うこととされており、制度導入後3年目の平成19年度の検証に続き、今年度は2回目の検証になります。

検証にあたっては、毎年度学校選択制により入学した児童生徒の保護者に対して選択した動機などアンケート調査を実施しているほか、今年度は選択制を利用せずに指定校に入学した児童生徒の保護者や、今後小学校に入学予定の子を持つ保護者などを対象として広くアンケート調査を行いました。

これにより、学校選択制の課題や問題点を整理し、学校選択制をよりよい方向に進めていくため検証作業を実施します。

(2) 検証の方法

平成20～22年度学校選択制により入学した児童生徒の保護者アンケート

学校選択制についての考えや、入学後の学校生活などについてアンケートを行いました。

区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度
調査対象者	78人	109人	118人
	小学校:53人 中学校:25人	小学校:61人 中学校:48人	小学校:50人 中学校:68人
調査方法	配布:郵送、回収:郵送		
調査期間	平成21年1月28日 ～2月19日	平成21年11月30日 ～12月18日	平成22年9月17日 ～10月8日
回答者	36人	71人	70人
	小学校:27人 中学校:9人	小学校:42人 中学校:29人	小学校:31人 中学校:39人
回答率	46.2%	65.1%	59.3%
	小学校:50.9% 中学校:36.0%	小学校:68.9% 中学校:60.4%	小学校:62.0% 中学校:57.4%

平成17年度（制度導入）以降に選択制を利用せず入学した児童生徒の保護者に対するアンケート

指定校に入学した理由や選択制の隣接校方式、選択できる学年、学校適正配置基本計画などについての調査を行いました。

調査対象者	小学1年～中学3年で選択制を利用しなかった児童生徒 9,581人のうち 1,000人
抽出方法	上記の中から、学年別、男女別、学校区別に無作為抽出
調査方法	配布:郵送、回収:郵送
調査期間	平成22年9月17日～10月8日
回答者	564人(小学校359人、中学校205人)
回答率	56.4%(小学校57.1%、中学校55.3%)

今後小学校に入学予定の子どもの保護者に対するアンケート
学校選択制の認知状況や選択制の隣接校方式、選択できる学年、学校適正配置基本計画などについての調査を行いました。

調査対象者	0～5歳の未就学児 4,242人のうち 500人
抽出方法	上記の中から、年齢別、男女別に無作為抽出
調査方法	配布:郵送、回収:郵送
調査期間	平成22年9月17日～10月8日
回答者	301人
回答率	60.2%

学校選択制に関する学校アンケート

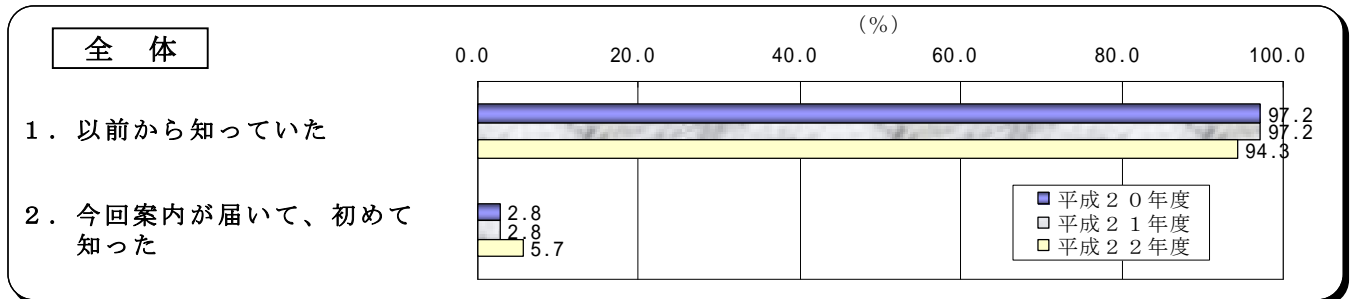
市内小中学校長に対して、選択制のメリットやデメリット、隣接校方式、選択できる学年、制度導入による変化などについての調査を行いました。

調査対象者	市内全小中学校長
調査方法	各学校に配布、回収
調査期間	平成22年9月17日～9月30日
回答校	29校
回答率	100%

2. アンケート調査の結果

(1) 平成20～22年度学校選択制により入学した児童生徒の保護者アンケート
〔資料1～30頁〕

問2. 江別市で学校選択制が実施されていることを知っていましたか？

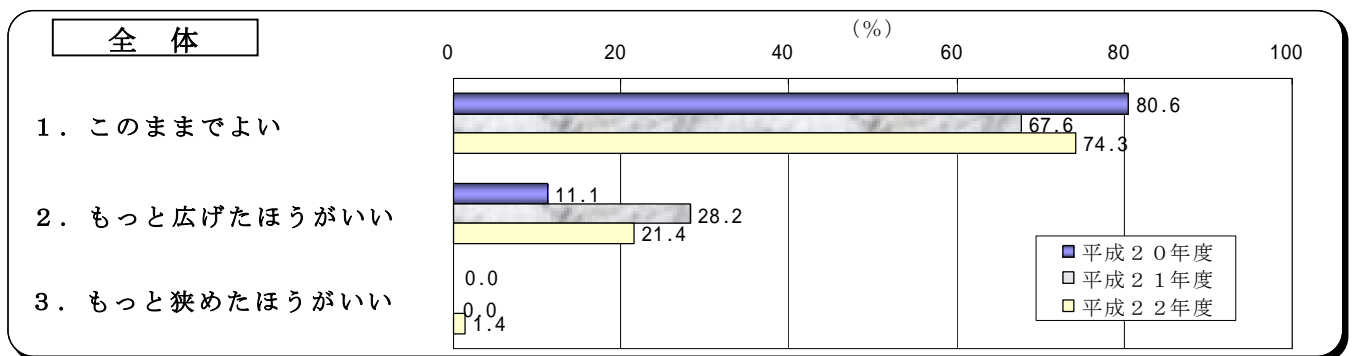


◎「以前から知っていた」と回答した方が、ほとんどでした。

問3. 学校選択制の説明会に出席しましたか？

◎「出席した」と回答した方は、3カ年平均で約56%でした。

問4. 現在の学校選択制（隣接校方式）についてどう思いますか？



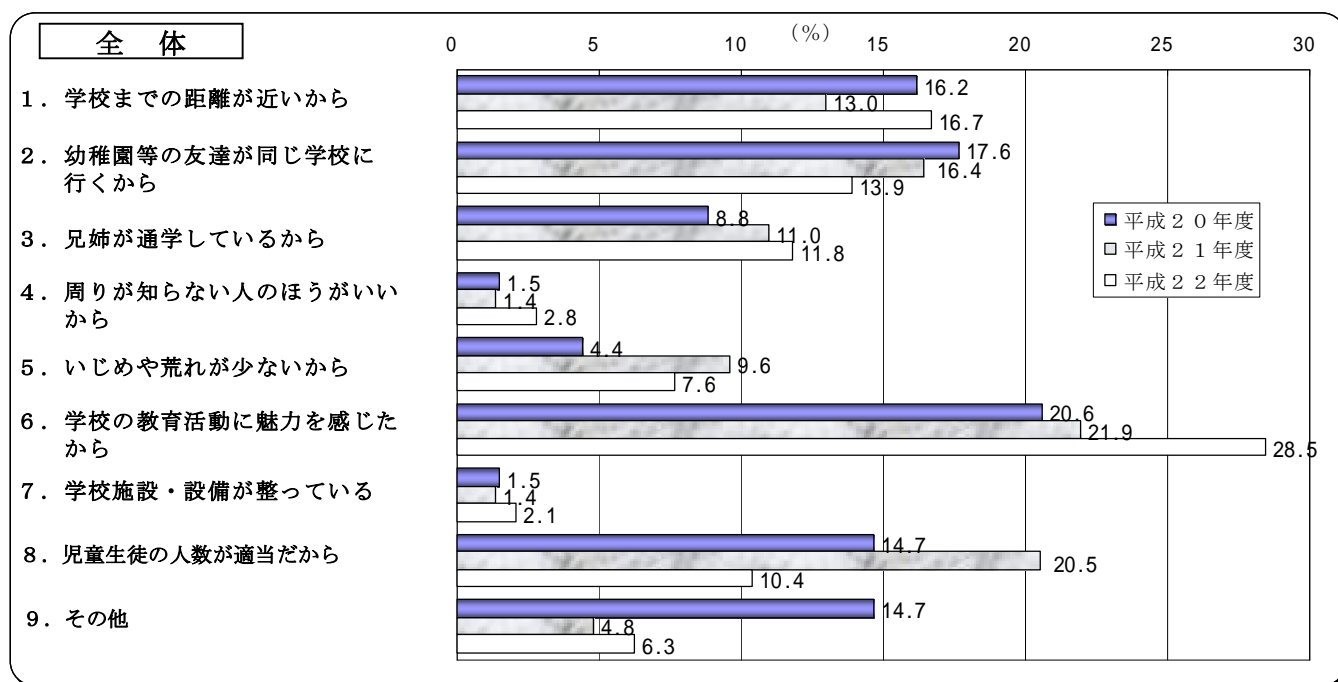
「このまま（隣接校方式）でよい」が小中ともに最も多く、3カ年平均で小学校が約82%（前回61%）、中学校が約61%（前回48%）でした。

◎「広げた（全域制）ほうがよい」は、3カ年平均で小学校が約15%（前回38%）、中学校が約28%（前回46%）でした。

◎「狭めたほうがよい」と回答した方は、ほとんどいませんでした。

「このまま（隣接校方式）でよい」と回答した方は、全体で約74%となり、前回調査時（約56%）より大幅に増えました。

問5. 学校をどのような理由で選びましたか？（複数回答可）



学習内容やクラブ活動などの「教育活動に魅力を感じたから」が最も多くなっています。

◎次いで、「学校までの距離が近いから」と「友達が同じ学校に行くから」が多くなっています。

「教育活動に魅力を感じたから」と回答した方が小中ともに多く、特に中学校ではクラブ活動を理由に選んでいる割合が高くなっています。

小学校では、「友達が同じ学校に行くから」と回答した方の割合が高くなっています。

問6. 入学した学校で取り組んでいる、魅力ある学校づくりや特色づくりについて知っていますか？

◎入学前から「知っていた」と回答した方は、3ヵ年平均で約47%でした。

◎現在「知っている」と回答した方は、3ヵ年平均で約88%となり、入学後は多くの方が取り組みについて知っていました。

問 7. 学校は最終的に誰が決めましたか？

◎小学校では「親子で相談」が最も多く、3ヵ年平均で約55%でした。次いで「保護者」が約33%でした。

◎中学校では「本人」が最も多く、3ヵ年平均で約51%でした。次いで「親子で相談」が約45%でした。

問 8. 学校を選択する際に、悩んだ点はありましたか？

◎「なかった」と回答した方が小中ともに多く、3ヵ年平均で小学校が約62%、中学校が約59%でした。

問 9. 学校を選択する上で、学校情報として参考にしたものは何ですか？

◎「友人・知人等からの話」が小中ともに最も多く、3ヵ年平均で約30%でした。

◎次いで「学校一斉公開日の学校見学」が約22%、「学校案内（冊子）」が約20%でした。

問 10. 学校への主な通学手段は何ですか？

◎「徒歩」が小中ともに最も多く、3ヵ年平均で小学校が約70%、中学校が約62%でした。

◎次いで中学校では「自転車」が多く、約26%でした。

問 11. 学校への登下校の際、不便を感じることはありますか？

◎「ない」が小中ともに多く、3ヵ年平均で小学校が約64%、中学校が約67%でした。

問 12. 学校生活の面で困っていることはありますか？

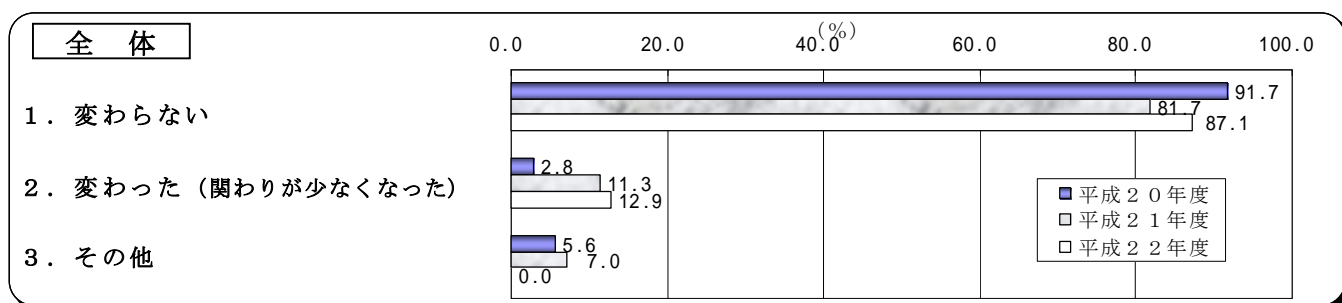
◎「ない」が小中ともに多く、3ヵ年平均で小学校が約96%、中学校が約89%でした。

問13. 保護者の方は、入学した学校のPTA事業活動をしていますか。

小学校では「活動している」が多く、3カ年平均で約79%でした。

中学校では「活動している」は、3カ年平均で約46%でした。

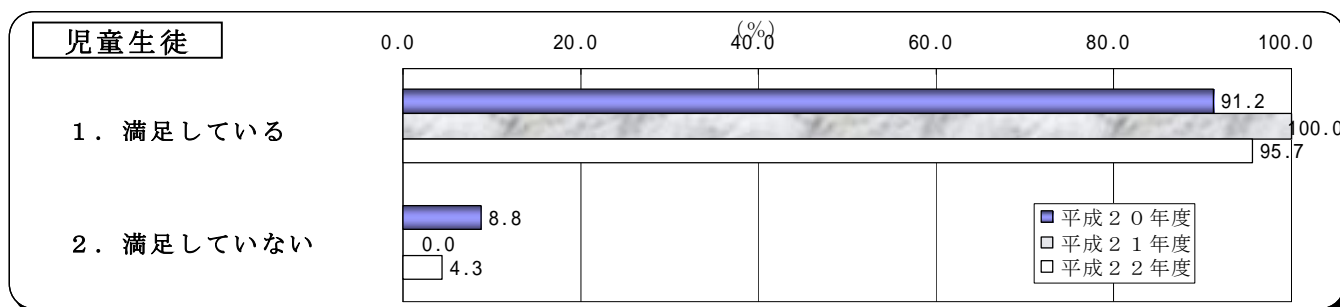
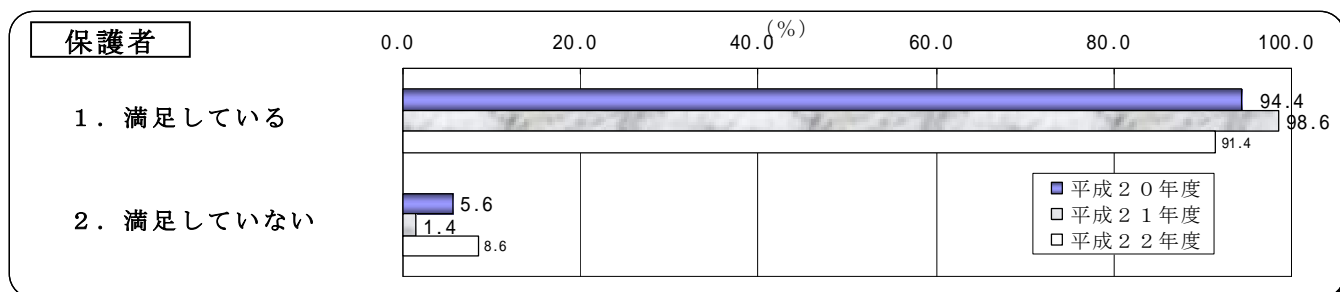
問14. 入学後、居住地での地域活動は変わりましたか？



◎「変わらない」と回答した方が小中ともに多く、特に小学校では3カ年平均が約96%でした。

学校選択制では、地域とのつながりの希薄化が心配されますが、選択制で入学した児童生徒の保護者のほとんどが「以前と変わらない」と感じていることが分かりました。

問15. 学校を選択し、現在の学校に入学した結果、どのように感じていますか？



保護者、児童生徒ともに大多数の方が「満足している」と回答しています。

学校選択により入学した児童生徒と保護者は、学校選択したことに高い満足感を持っていることが分かりました。

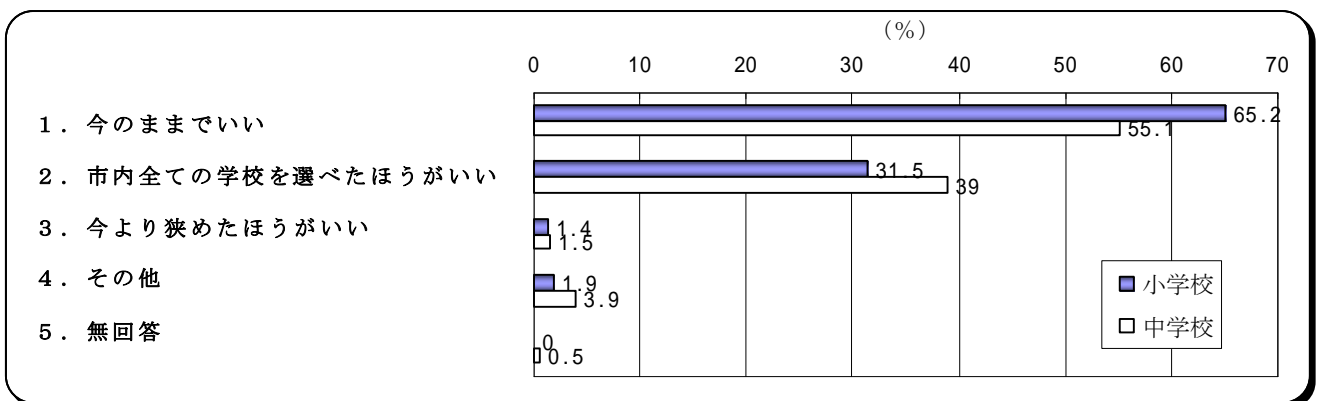
(2) 平成17年度(制度導入)以降に選択制を利用せず入学した児童生徒の保護者に対するアンケート〔資料31～48頁〕

問4. 学校選択制を利用せず、現在の学校(指定校)に入学した理由は何ですか？

◎「指定校に行くのが、学校生活を送る上で良いと思ったから」が小中ともに最も多く、小学校で約43%、中学校で42%でした。

◎次いで「校区で決まっているから」が多く、小学校で27%、中学校で約29%でした。

問5. 選択できる学校の範囲として校区と隣接する地域の学校(隣接校方式)としていますが、この方式をどう思いますか？



◎「今のままでいい」と回答した方が小中ともに最も多く、小学校で約65% (前回47%)、中学校で約55% (前回39%) でした。

次いで「市内全ての学校を選べたほうがいい」と回答した方は、小学校で約32% (前回45%)、中学校で39% (前回54%) でした。

前回調査(平成19年)では、中学校で市内全域制を望む声が大きかったですが、今回の調査では、小中ともに隣接校方式が上回りました。

問6. 問5で「今のままでいい」と回答した方。理由は何ですか？

◎「実際に通学するうえで妥当な範囲だから」が小中ともに最も多く、小学校で約74%、中学校で73%でした。

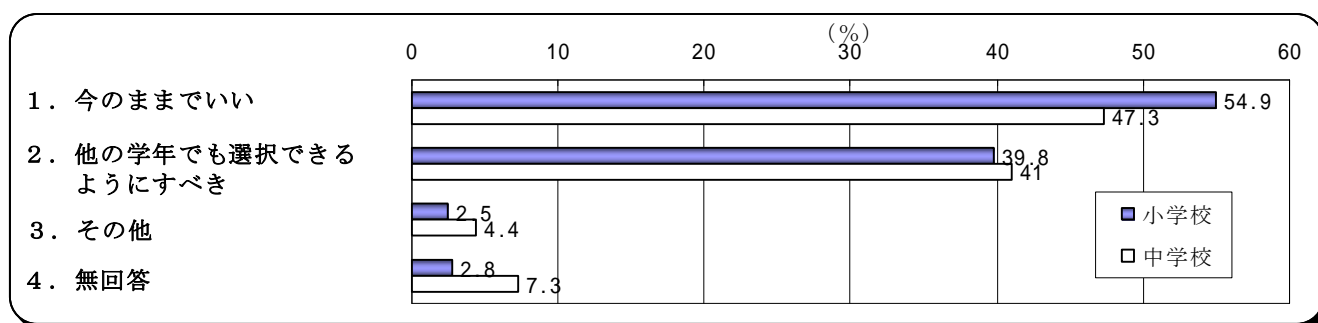
問7. 問5で「市内全ての学校を選べた方がいい」と回答した方。理由は何ですか？

◎「選択肢が広がり、自分の個性にあった学校へ行けるから」が小中ともに最も多く、小学校で約58%、中学校で約46%でした。

問8. 問5で「今より狭めた方がいい」と回答した方。理由は何ですか？

◎回答した8人のうち、「通学距離が短い学校が選択できればいいから」と「多くの学校を選べると、1校に絞ることが難しいから」が3人ずつでした。

問9. 現在、選択できる学年は、クラス編成等の学校運営の関係から、入学する新1年生のみとしています。どう思いますか？

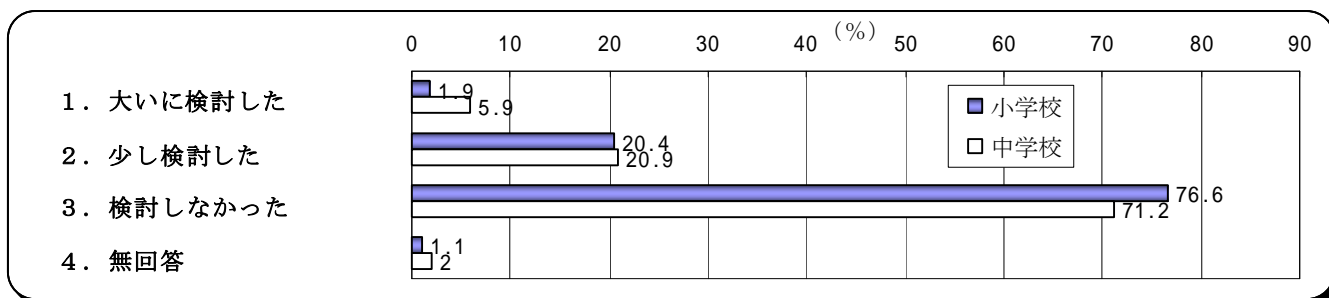


◎「このままでいい」と回答した方が小中ともに最も多く、小学校で約55%（前回45%）、中学校で約47%（前回52%）でした。

次いで「他の学年でも選択できるようにすべき」と回答した方は、小学校で約40%（前回48%）、中学校で41%（前回43%）でした。

前回調査（平成19年）では、小学校で「このままでいい」と「他の学年でも」がほぼ同じ割合でしたが、今回の調査では、小中ともに「このままでいい」が上回りました。

問10. 入学前に、校区内外を問わず学校について検討してみたことがありますか？



◎「検討しなかった」と回答した方が小中ともに最も多く、小学校で約77%、中学校で約71%でした。

問11. 問10で「大いに検討した」、「少し検討した」と回答した方。

(1) 関心を持った学校は、どの学校ですか？

◎小学校では、「校区の学校」と「校区外の学校」がほぼ同じ割合で、約48%ずつでした。

◎中学校では、「校区の学校」が約32%、「校区外の学校」が約64%でした。

(2) 具体的にどのようなことをしましたか？

◎「友人・知人などから話を聞いた」が小中ともに最も多く、小学校で約44%、中学校で約39%でした。

問12. 問10で「検討しなかった」と回答した方。理由は何ですか？

◎「指定校への入学を決めていたから」が小中ともに最も多く、それぞれ約82%でした。

問13. 学校選択する場合、必要な情報は何だと思いますか？

◎「学校の見学」と「学校の特色や様子がわかる学校説明会」が小中ともに多く、約22%でした。

問14. 各小中学校では、「顔づくり事業」を始め、魅力づくり・特色づくりに取り組んでいますが、今通っている学校でどのような活動を行っているか知っていますか？

◎「よく知っている」と「少し知っている」をあわせると、小学校で約46%、中学校で約32%でした。

問15. 問14で「よく知っている」と「少し知っている」と回答した方。

(1) どういう手段でそのことを知りましたか？

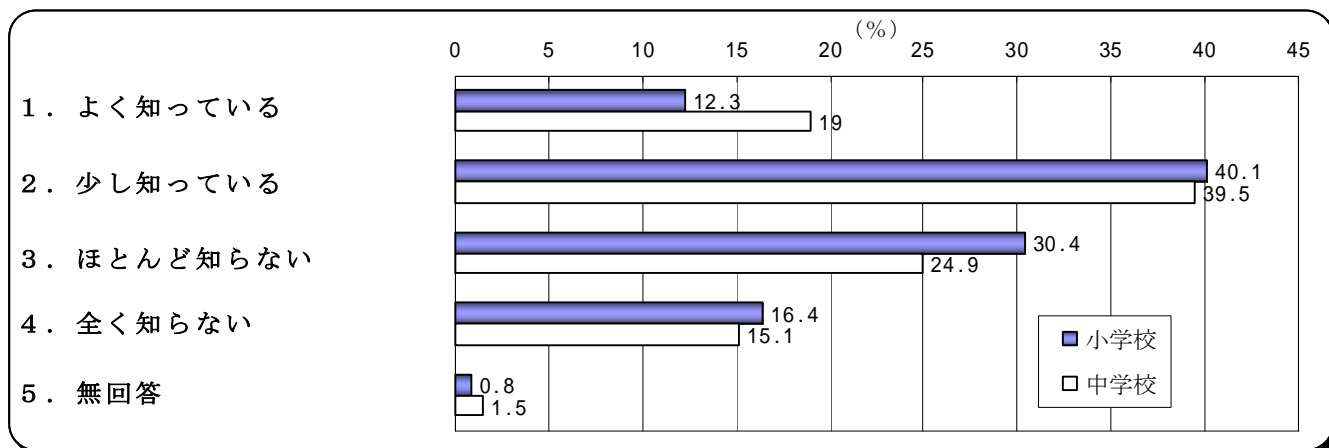
「学校通信」が小中ともに最も多く、小学校で約47%、中学校で約46%でした。

(2) 学校選択制を行ったことで、学校の魅力づくり・特色づくり活動は、以前より進んだと思いますか？

◎「大いに思う」と「少し思う」をあわせると、小学校で約31%（前回約24%）、中学校で約39%（前回約22%）でした。

前回調査時に比べ、小中ともに「以前よりも進んだ」と思う割合は増えました。

問16. 学校選択制とは別に、やむを得ない相当な理由があれば校区外の学校へ通学できる制度（区域外通学制度）があることを知っていますか？

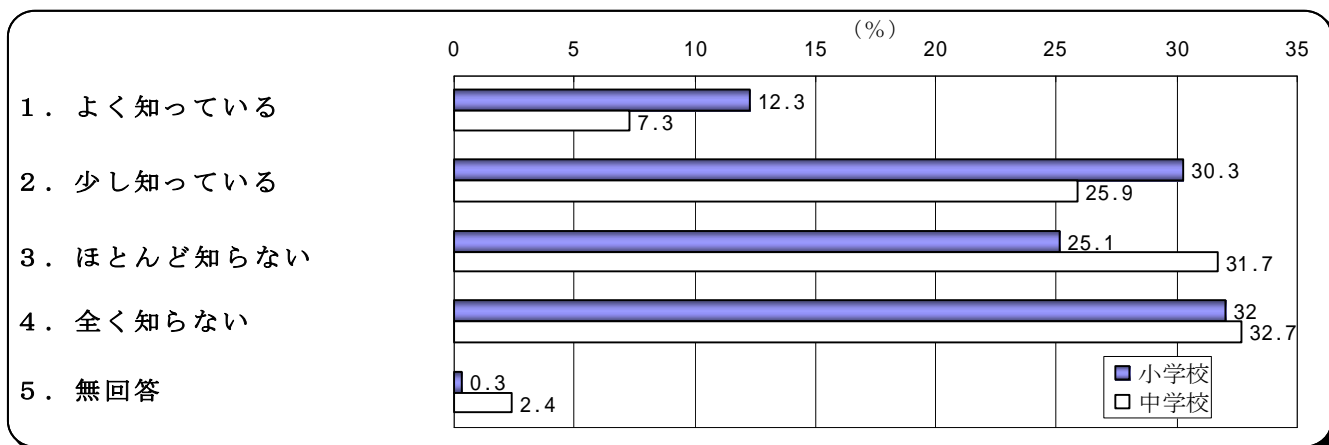


「よく知っている」と「少し知っている」をあわせると、小学校で約52%、中学校で約59%でした。

◎「ほとんど知らない」と「全く知らない」をあわせると、小学校で約47%、中学校で40%でした。

区域外通学制度の認知度は、小学校で5割、中学校で6割程度ということが分かりました。

問17. 江別市では、小中学校の適正な学校規模の確保を目指した、「江別市学校適正配置基本計画（21年4月）」を策定しましたが、そのことを知っていますか？

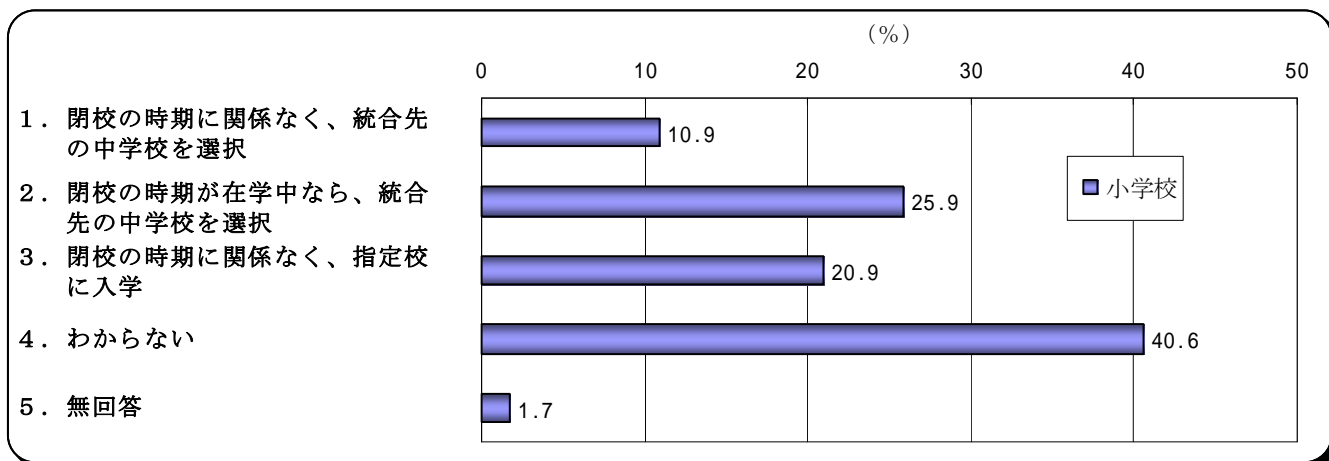


◎「よく知っている」と「少し知っている」をあわせると、小学校で約43%、中学校で約33%でした。

◎「ほとんど知らない」と「全く知らない」をあわせると、小学校で約57%、中学校で64%でした。

江別市学校適正配置基本計画（21年4月）の認知度は、小学校で4割、中学校では3割程度にとどまることが分かりました。

問18. お子さんが小学生の方で、指定校の中学校が統合の対象校となり閉校が見込まれる場合、学校選択制を利用して統合先の中学校を選択しますか？



「わからない」が約41%で最も多く、入学する学校をどうするか回答を保留しています。

◎「閉校の時期に関係なく、統合先を選択」と「閉校が在学中なら、統合先を選択」をあ

わせると約37%でした。

統合が見込まれることで、約37%の方で学校選択に影響を与えることが分かりました。

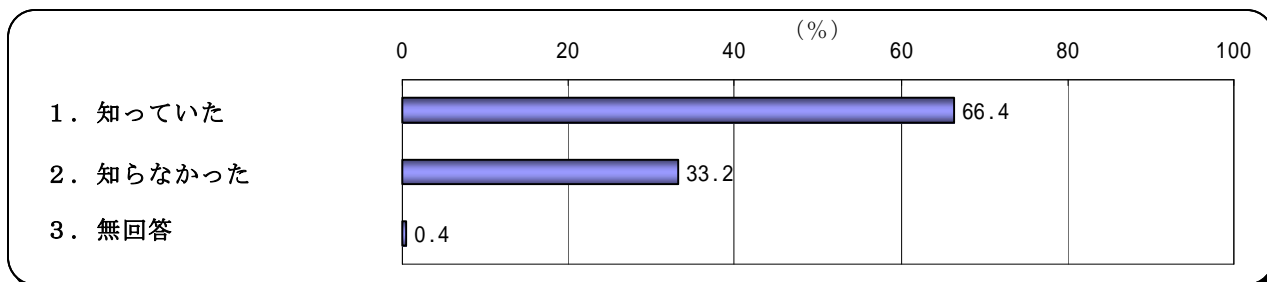
「分からない」と回答した約41%の方の行動によって、学校選択にさらに大きな影響を与える可能性があることが分かりました。

問19. 学校選択制について、ご自身が思っていることを自由に記入してください。

小学校で102件、中学校で60件、合計で162件の意見が寄せられました。

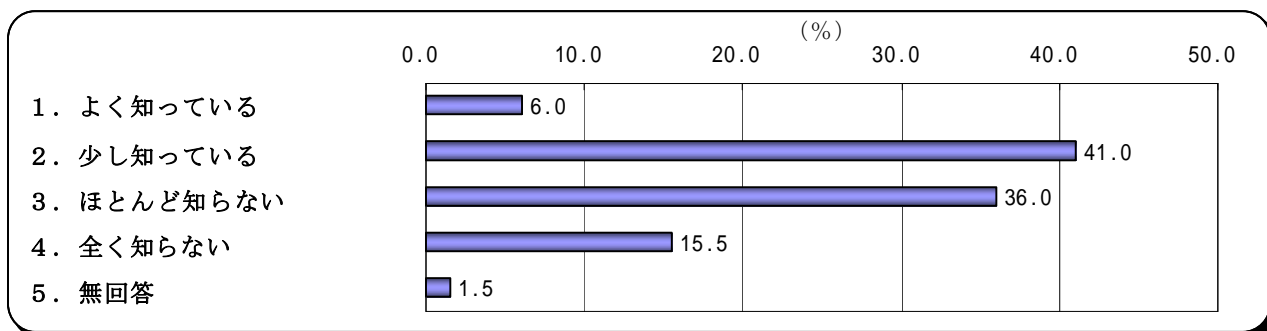
(3) 今後小学校に入学予定の子どもの保護者に対するアンケート〔資料49～59頁〕

問4. 江別市で学校選択制を導入していることを知っていましたか？



「知っていた」と回答した方は約66%でした。

問5. 問4で「知っていた」と回答した方で、学校選択制の制度の内容（選択できる学校の範囲、選択できる時期など）を知っていますか？



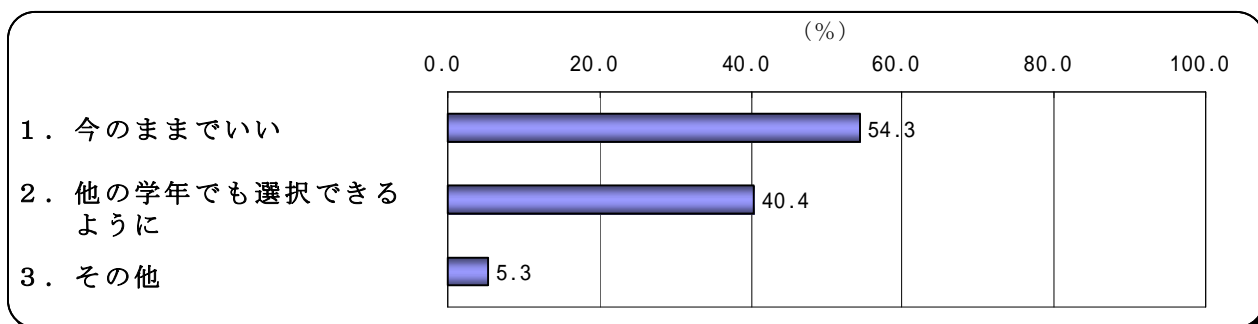
◎「よく知っている」と「少し知っている」をあわせると47%でした。

◎「ほとんど知らない」と「全く知らない」をあわせると約52%でした。

江別市で学校選択制を導入していることは知っているものの、制度の内容まで知っている方は5割に満たないことが分かりました。

問6. 問5で「知っている」と回答した方に伺います。

(1) 選択できる学年は、小学校中学校に入学する新1年生のみとしています。どう思いますか？

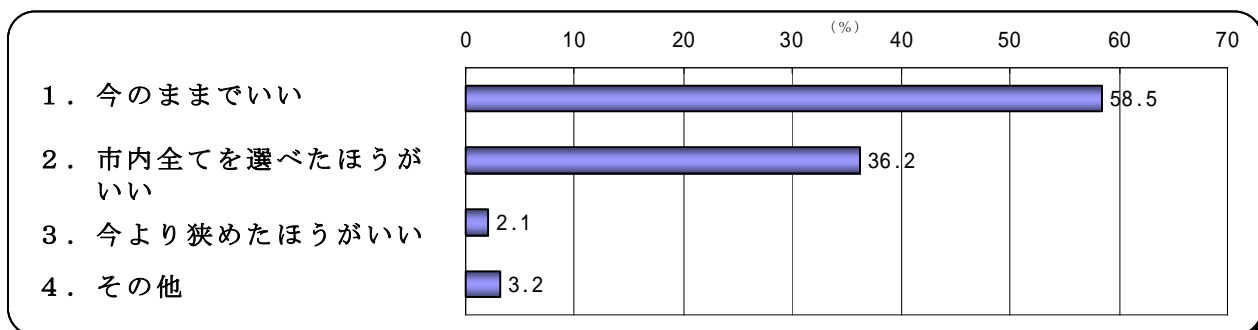


「今のままでいい」が最も多く、約54%（前回58%）でした。

「他の学年でも選択できるように」は、約40%（前回39%）でした。

選択できる学年は、現在の新1年生のみとする取り扱いの継続を希望している方が前回に続き最も多く、5割を超えていることが分かりました。

(2) 選択できる学校の範囲は、校区と隣接する地域の学校（隣接校方式）としています。どう思いますか？



◎「今のままでいい」が最も多く、約59%（前回45%）でした。

◎「市内全てを選べたほうがいい」は、約36%（前回47%）でした。

選択できる学校の範囲は、現在の隣接校方式の継続を希望する方が最も多く約6割で、前回の結果を上回りました。

問7. 問6(2)で「今のままでいい」と回答した方。理由は何ですか？

◎「実際に通学するうえで妥当な範囲だから」が最も多く、60%でした。

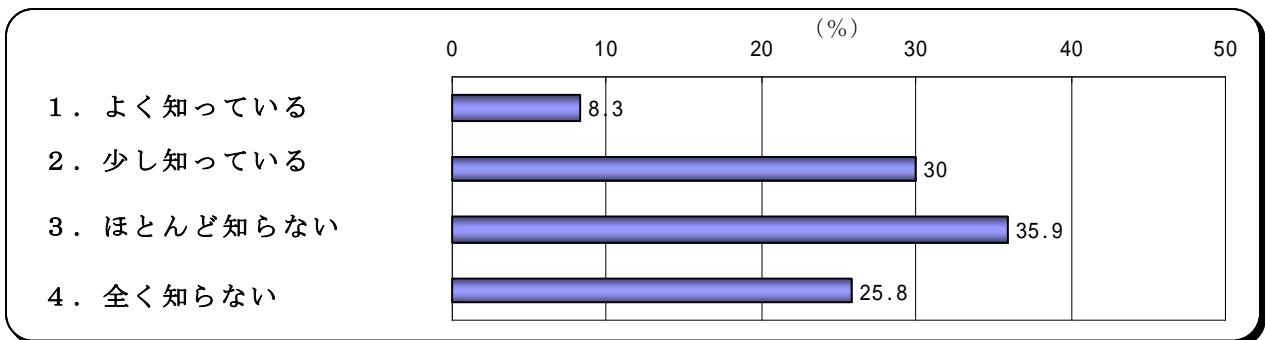
問8. 問6(2)で「市内全ての学校を選べた方がいい」と回答した方。理由は何ですか？

◎「選択肢が広がり、より自分の個性にあった学校へ行けるから」が最も多く、約46%でした。

問9. 問6(2)で「今より狭めた方がいい」と回答した方。理由は何ですか？

◎回答した2人のうち、「通学距離が短い学校が選択できればいいから」と「多くの学校を選べると、1校に絞ることが難しいから」が1人ずつでした。

問10. 学校選択制とは別に、やむを得ない相当な理由があれば校区外の学校へ通学できる制度(区域外通学制度)があることを知っていますか？



◎「よく知っている」と「少し知っている」をあわせると、約38%でした。

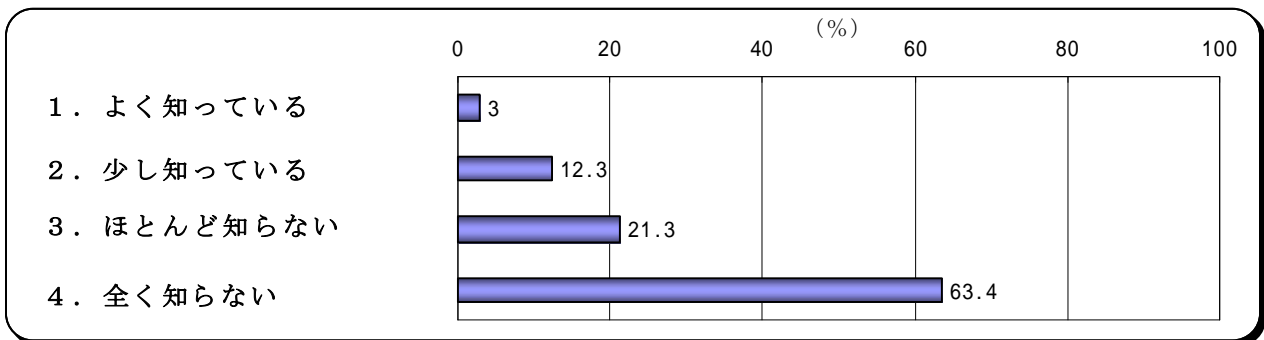
◎「ほとんど知らない」と「全く知らない」をあわせると、約62%でした。

就学前の子の保護者の区域外通学制度の認知度は、4割に満たないことが分かりました。
(就学中の児童生徒の保護者では、5～6割)

問11. お子さんが小学校へ入学する際、学校選択制あるいは区域外通学制度を利用して他の学校へ入学する予定はありますか？

◎「指定校入学を予定」と「まだ分からない」が最も多く、ともに約47%でした。

問 1 2. 江別市では、小中学校の適正な学校規模の確保を目指した、「江別市学校適正配置基本計画（21年4月）」を策定しましたが、そのことを知っていますか？

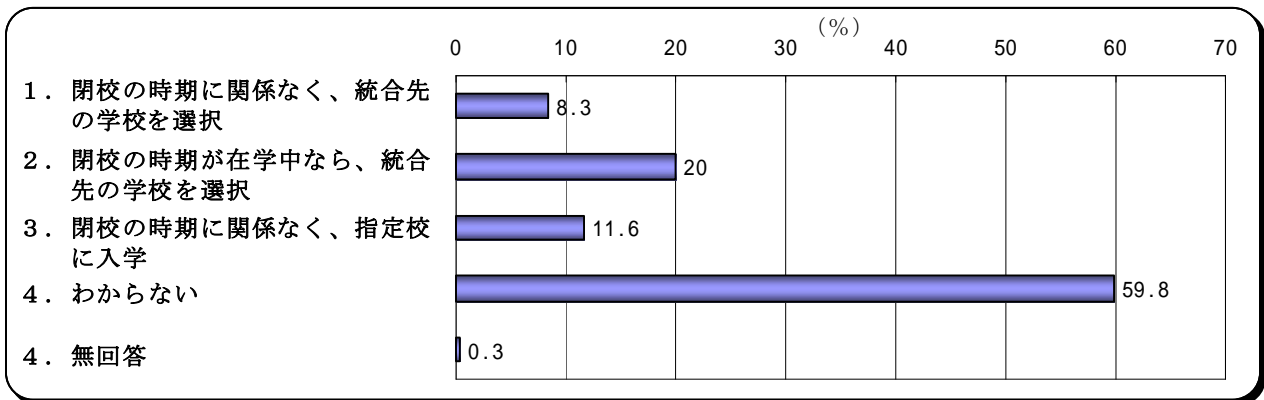


◎「よく知っている」と「少し知っている」をあわせると、約15%でした。

◎「ほとんど知らない」と「全く知らない」をあわせると、約85%でした。

就学前の子の保護者の江別市学校適正配置基本計画（21年4月）の認知度は、2割にも満たないことが分かりました。（就学中の児童生徒では、小学校4割、中学校3割）

問 1 3. 指定校が統合の対象校となり閉校が見込まれる場合、学校選択制を利用して統合先の学校を選択しますか。



◎「わからない」が最も多く約60%でした。（就学中の児童生徒の保護者では40%）

◎「閉校の時期に関係なく、統合先を選択」と「閉校が在学中なら、統合先を選択」をあわせると約28%でした。（就学中の児童生徒の保護者では37%）

未就学の子の保護者では、「わからない」が約60%で、入学する学校をどうするか回答を保留しています。

「わからない」と回答した約60%の方の行動によって、学校選択にさらに大きな影響を与える可能性があることが分かりました。

問14. 学校選択制について、ご自身が思っていることを自由に記入してください。

◎全体で94件の意見が寄せられました。

(4) 学校選択制に関する学校アンケート〔資料60～73頁〕

※回答方法は、全て自由記述形式（回答内容により項目を分類しています）

問1. 学校現場における学校選択制のメリット、デメリットについてどうお考えですか？

(1) メリット

- | | |
|----------------------|-----|
| ①選択肢が広がる、魅力のある学校を選べる | 18件 |
| ②人間関係のトラブル解消 | 8件 |
| ③通学の距離が近くなる場合がある | 6件 |
| ④学校、保護者の変化 | 3件 |
| ⑤その他 | 7件 |

(1) デメリット

- | | |
|---------------|-----|
| ①通学上の問題 | 18件 |
| ②学校間格差の拡大 | 14件 |
| ③地域とのつながりの希薄化 | 12件 |
| ④学校運営上の問題 | 8件 |
| ⑤指導上の問題 | 5件 |
| ⑥その他 | 6件 |

問2. 選択できる学校の範囲を今の隣接校方式から、範囲を「広げた方が良い」という一部保護者の声がありますが、そのことについてどのようにお考えですか？

◎全体で34件の意見が寄せられました。

範囲を広げることについて「賛成」、「どちらかと言えば賛成」の意見は、5件（約15%）でした。

範囲を広げることについて「反対」、「どちらかと言えば反対」の意見は、29件（約85%）でした。

教職員では、隣接校方式からさらに範囲を広げることについて、反対の意見が8割を超えることが分かりました。

問3. 現在は、選択できる学年は翌年度小学校あるいは中学校に入学する新1年生ですが、「他の学年でも選択したい」という児童生徒と保護者の意見もあります。このことについてご意見をお聞かせください。

◎全体で32件の意見が寄せられました。

選択できる学年をさらに広げることについて「賛成」、「どちらかと言えば賛成」の意見は、8件（25%）でした。

選択できる学年をさらに広げることについて「反対」、「どちらかと言えば反対」の意見は、24件（75%）でした。

教職員では、選択できる学年をさらに広げることについて、反対の意見が7割を超えることが分かりました。

問4. 学校選択制の導入により、「特色ある学校づくり」あるいは「地域一体型・学校の顔づくり事業」との関連で、これらを進めようという教職員の意識が高まったかどうか、ご意見をお聞かせください。

◎全体で27件の意見が寄せられました。

◎教職員の意識が「高まった」、「どちらかというが高まった」の意見は、わずか2件（約7%）でした。

◎教職員の意識が「高まってない」、「どちらかというが高まってない」の意見は、25件（約93%）でした。

「特色ある学校づくり」や「地域一体型・学校の顔づくり事業」を進める上で、学校選択制は、直接関係ないと認識している教職員が多いことが分かりました。

問5. 学校選択制の導入により、保護者の学校運営に対する関心が高まったかどうかについて、感想、ご意見がありましたらお聞かせください。

◎全体で25件の意見が寄せられました。

◎保護者の学校運営に対する関心が「高まった」、「どちらかというが高まった」の意見は、5件（20%）でした。

◎保護者の学校運営に対する関心が「高まっていない」、「分からない」の意見は、20件（80%）でした。

学校選択制の導入により保護者の学校運営に対する関心が高まっていると感じている教職員は、2割にとどまることが分かりました。

問6. 学校選択制の導入により、どのような変化（教職員、児童生徒、保護者など）が見られたかご自由にお書き下さい。

◎全体で24件の意見が寄せられました。

問7. 学校のPRなど情報発信の部分で学校側の努力課題あるいは市教委に何か要望がありましたら、お聞かせください。

◎全体で23件の努力課題、要望が寄せられました。

◎学校側の努力課題は6件でした。

<主な課題>

- ・開かれた学校を目指し情報発信に努める
- ・情報発信の方法は、一層の工夫、努力が必要である など

◎市教委への要望は17件でした。

<主な要望>

- ・市教委でも、もっと学校の特色のPRをして欲しい
- ・学校のホームページの充実のため、予算や人的支援をお願いしたい など

問8. 市では、学校適正配置基本計画を策定し、統廃合に向けた取り組みを進めていますが、学校選択制の導入により小規模校における児童生徒数の減少に拍車がかかる事態も考えられます。このことについて、どのようにお考えですか。

◎全体で37件の意見が寄せられました。

◎「やむを得ない」という意見は、13件でした。(約35%)

◎「問題である」という意見は、16件でした。(約43%)

◎「どちらとも言えない、その他」の意見は、8件でした。(約22%)

問9. 今後の学校選択制のあり方について、何かご意見等があればお書き下さい。

◎全体で35件の意見が寄せられました。